

わたぼうしの変遷

家庭だより第一号

わたぼうし第五十号

一年を振り返って

園生 杉山勝弘

昭和六十一年一月三十一日「家庭だより」として利用者の家族を対象に第一号が発行されました。当時はB4判用紙一枚に両面印刷で手作りのものでしたが、家族の声が盛りだくさんに載せられていきました。当時の編集委員から印刷の際、インクまみれになつたと思ひ出が語られました。

第七号からは印刷会社に発注し、B5判八ページのものとなりました。初めての表紙の写真は文化祭の演芸発表での皆さんでした。いろいろな表情が見て取れました。

第八号から「わたぼうし」と名前を変え、現在発送を利用者の家族に限らず、各関係機関に広げました。途中、用紙サイズをB判からA判に、写真を白黒からカラーに変更し、現在に至ります。記事の内容は行事や旅行などの樂しかった思い出や利用者一人ひとりの紹介、作業や奉仕活動、交流活動など多岐にわたります。三十年という長きに渡り、利用者さんの活き活きとした表情を発信してきました。

今年一年は、いろいろな事がありました。中でも一番大きな出来事は、I商店に職場実習に出た事です。

ぼくは、高校卒業後に自衛隊に入隊しました。その後父さんと工務店で働いたことがあります。それでもやめて、その後に白鳥ホームに来ました。それから五年が経ちましたが、まさか外に出て働くとは思つてもいませんでした。久しぶりに行つてみると、店の人がとても優しく、いろいろと教えてくれ本当に助かりました。まだ、ここの仕事をやつて社会に出れる自信はありません。それになにかもつと違う仕事もやつてみたいくらいであります。この職場実習が、これから自分が社会に出るための訓練の一つだと思って頑張つて行きたいと思います。

(家庭だより一号より抜粋)



第50号表紙に使用された
花見の写真

節分・洋らんまつりの様子



わたぼうし第五十号は、平成十四年五月一日に発行されました。
なんとページ数は今よりも多く、十ページに及んで利用者さんの生活や行事の様子をお届けしていました！

表紙には当時の花見の様子が掲載され、今は違い、外で花見を楽しむ利用者さんの様子が写し出されています。

記事の内容は、行事の様子や、苦情受付の報告、ホームページのあれこれと題された日常の風景が掲載されていました。



わたぼうし最新号



家庭だより第1号